



1.片岡選手の出身である柏木保育園にて、1月13日に絵本の読み聞かせ会を開催。2.JALふるさと納税オリジナル名取市返礼品の第一弾として、名取市、ジャルパック、ジェイエア、JALスカイ仙台が共同で、名取市オリジナル周遊チャーターフライトを企画。3.「空飛ぶ絵本ポスト」。4.仙台二華中学校での講演の様子。5.名取市周遊チャーターフライトで活躍するエンブラエル170型機。



「空飛ぶ絵本」が子どもの笑顔をつなぐ

最後に、「空飛ぶ絵本」をご紹介します。これは、仙台市をホームとするプロバスケットボールチーム、「仙台89ERS」の片岡大晴選手が発案したプロジェクトです。仙台89ERSがホームゲームで勝利したら、片岡選手が毎

「JALお仕事・マナー講演」を実施しました。これから職業を選択する中学生の皆さまへ、仕事の内容や楽しさ、やりがい、航空会社への就職を目指した動機などについて、仙台市出身のJALグループ社員がお話しし、JALふるさと応援隊の杉浦重紀が、客室乗務員の心掛けや接客マナーについて講演を行いました。生徒さんからは、「興味深い分野で、今後将来を考えたいきっかけになった」との感想をいただきました。この他にも次世代育成を通じて子どもたちの学びや気づきを手助けできるよう、各地で活動を継続していきます。

子どもたちが笑顔で前向き、自分たちの未来に希望が持てるように、JALグループはこれからも「空」の知見を生かし、夢を後押ししていきます。

試合絵本をプレゼントするというもの。絵本を通じて、親子の時間を創出し、子どもたちの夢を後押しし、明るい未来へつなぐきっかけを作りたい！という片岡選手の思いから生まれました。ホームゲームのSDGsデーには、ゼビオアリーナ仙台に「空飛ぶ絵本ポスト」を設置して読み終えた絵本の寄附を呼びかけ、絵本のバトンを新たな持ち主へつないでいきます。JALグループはこの活動に賛同し、2022年から協賛しています。1月に仙台市内の柏木保育園で開催された読み聞かせには、JALふるさとアンバサダーの高瀬雅子も加わり、地域の子どもたちと交流を深めました。今後は、片岡選手との読み聞かせ会での「JAL折り紙ヒコーキ教室」の実施も検討しています。

\*寄附をすることで「自分のためだけでなく誰かのためになる」返礼品や「社会貢献に繋がる」返礼品のこと。



2015年9月、全国加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社會などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。

# 東北の子どもたちの笑顔のために



## 復興支援の、その先へ子どもの未来に貢献

東日本大震災から今年で12年。これまでJALグループは東北各地で復興支援に取り組んできました。そして今、次世代を担う子どもたちを笑顔にする活動にも力を入れています。

仙台空港のある宮城県名取市では、「JALふるさと納税」限定の思いやり型返礼品(\*1)として「子育て先進都市実現に向けた返礼品」を企画・出品し、ご寄附をいただきました。これは、次世代を担い活躍する人財育成に力を入れる名取市とJAL東北支社が、名取市在住の子どもたちを招待して周遊チャーターフライトを実施し、名取市の魅力勉強会や機内での航空教室を通じて、子どもたちの成長に貢献するものです。当日は、



公募により参加が決定した小学生約50人を乗せて、JALグループの飛行機が名取市の空へと飛び立ちます。「震災で大きな被害を受けながらも、未来に向けて力強く進化し続ける街の姿を、空の上から子どもたちに見てほしい。そして、故郷に誇りを持ってほしいと考え、この返礼品を企画しました」と、JAL東北支社の江口奨理は語ります。3月25日には、仙台空港のグラウンドスタッフや整備士の仕事と、飛行機が離発着する様子を、バックヤードで間近に感じていただく見学会の実施も予定しています。

## 中学生を対象に空のお仕事を紹介

空の仕事に興味を持っていただく取り組みは、仙台二華中学校でも。昨年11月30日、同校の生徒314人を対象に

今回のテーマに該当する目標

